

膀胱がん

【集学的治療の実施状況】

泌尿器科：

手術は筋層非浸潤の表在性膀胱癌には内視鏡手術を、また筋層浸潤性膀胱癌には、開腹による膀胱全摘手術（尿路変更は回腸導管または尿管皮膚瘻）を泌尿器科で施行します。周囲臓器浸潤例では外科と合同で施行します。抗ガン剤の膀胱内注入やBCGの膀胱内注入療法は泌尿器科にて施行します。抗ガン剤の動注療法は放射線科と泌尿器科の合同で施行します。放射線治療はリニアック照射を放射線科と泌尿器科の合同で施行します。抗ガン剤の全身投与は泌尿器科で施行します。

放射線科：

画像診断と放射線治療を行います。

栄養サポートチーム（NST）：

医師、栄養士、看護師、薬剤師等が一丸となって栄養面をサポートしています。具体的にはがんによって食事が摂れなくなった患者さんに適切な栄養について検討しています。週一回の回診とカンファレンスを行っています。

緩和ケアチーム：

緩和ケアチーム、麻酔科、心療内科、各診療科、NST チームが協力して集学的治療を行っています。緩和ケアチーム(医師、認定看護師、認定薬剤師等)が中心になって、病状、患者の思いを把握して、多職種で連携して苦痛を緩和します。

《準じているガイドライン名》

日本泌尿器科学会 膀胱癌診療ガイドライン 2009 年版
がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2014 年版（日本緩和医療学会）
苦痛緩和のための鎮静に関するガイドライン 2010 年版（日本緩和医療学会）
終末期癌患者に対する輸液療法のガイドライン 2013 年版（日本緩和医療学会）
がん患者の消化器症状の緩和に関するガイドライン 2011 年版（日本緩和医療学会）
がん患者の呼吸症状の緩和に関するガイドライン 2011 年版（日本緩和医療学会）
がん性痛に対するインターベンショナル治療ガイドライン（日本ペインクリニック学会）
神経障害性疼痛薬物療法ガイドライン（日本ペインクリニック学会）
在宅緩和ケアガイドブック 2008 年版（日本緩和医療学会）